

正論

昭和49年5月2日
第3種郵便物認可
平成19年10月1日発行
(毎月1日発行)
通巻第427号
産経新聞社

2007 10 SEIRON

撮影 秋山庄太郎「酒井和歌子」



【総力特集】ならば民主党に日本は託せるか 西部邁
民主喜劇の大舞台と化した日本列島
左派・リベラルの反抗に敗れた安倍自民 中西輝政
小沢一郎―「原理」なき原理主義者 遠藤浩一
小沢民主が仕掛ける「次の一手」のジレンマ 花岡信昭

A級戦犯合祀 昭和天皇の「不快感」は本当か 斎藤吉久
モラルなき中国経済の行き着く先 石平
事実を無視しての謝罪に英霊は泣いている
”あの戦争”を誇りに思っている
何が悪いのか 上坂冬子／戸高一成／吉村泰輔
戦後日本人が忘れた感謝の心
よく生きればよい報いがある 桐山靖雄／さかもと未明

山崎正和・中教審会長への疑問第二弾！

「徳育」なくして何の教育か 金井肇

慰安婦決議の次に中国が狙うサンフランシスコ講和条約の解釈変更 江崎道朗

【特集】 いまだに「強制連行」史観にしがみついた人たち

またぞろ「戦後補償」を叫んで動き始めた“人権派弁護士” 新井佐和子

歴史の捏造に救いを求めた元慰安婦たち 呉善花

仰天！「ナヌムの家」訪問記 野牧雅子

時代を貫いて輝く「青春」をくれた阿久悠さん 森田健作

拜啓 小沢民主党代表

あなたの“変身”は 国民を裏切っていませんか

かつての同志からの手紙。

これなら自由党も新進党の解党も必要なかった

自由党代表 ●いぬふしひでかず

犬伏 秀一

参議院選挙で圧勝し、政局の主導権を得た時の人であるあなたに、このような僭越なお手紙を差し上げるご無礼をお許しく下さい。私には、今のあなたがかつての小沢一郎と同じ人物だとは思えないからです。

《犬伏氏は昭和31年東京都生まれ。現在大田区議。55年体制下の地方議会では、与党が役所の政策決定を牛耳り、野党は官公労の既得権維持に走る。こんな光景が当たり前だった。犬伏氏はこうした構図に果敢に挑み、役所や学校の癒着体質を糾す活動を展開してきた。公務員や教員から目の敵にされたが、こうした独自の活動で当選3回を果たした異色の地方議員だ。

一方で南京事件を不当に歪めて描いた本宮ひろしのマンガ「国が燃える」に憤慨。抗議活動を展開し、連載休止に追い込んだり、元航空自衛官だった経験から、現在も予備自衛

官であるなど、地域エゴに染まらない国家を見据えた活動でも知られる。

そんな犬伏氏にとつての政治の原点は、政治家、小沢一郎との出会いだ。小沢氏に心酔し、氏が掲げる「日本一新」に集った。ところが、自由党はやがて解党。しかし、犬伏氏は、小沢氏が民主党に合流し、党を去った今も小沢イズムを掲げ、たった一人で自由党の旗を守り続けている、全国でただ一人の自由党議員（代表）だ。本稿は参院選に勝利し、これから政権奪取をうかがう、かつての「師」小沢氏に対する「公開質問状」であり、小沢一郎論である。

私があなたと初めてお会いしたのは、平成6年の春でした。大田区選出の都議会議員、松原仁氏（現民主党衆議院議員）からのお誘いで参加した新進党大田支部設立大会の席です。その席であなたが語った「国を憂える心」に、私は大い

に感動し、支部常任幹事を即座にお引受したのです。しかし、あなたの講演の後に登壇された「新進党第一期区議会議員候補者」の皆さんは、あまりにも弱々しく、私はそのギャップを松原都議にぶつけたのです。すると、翌日から松原都議から私の「区議出馬攻勢」が始まりました。そんなに言うなら、お前（私）が区議選に出ろ、とおっしゃるのです。

その頃私は、年商10億円を超える旅行会社の経営者でしたので、何度もお断りしましたが彼の攻勢は止りませんでした。そこで、平成6年8月、ついにお受けすることに致しました。それは、松原都議の執拗な口説きに負けたのではなく、小沢さん、あなたの「国を変える」思いに賭けようと思

ったからです。決断した翌日から「新進党」の名刺を持ち、区内を歩き始めました。松原都議から教えられた選挙必勝法は「毎日駅頭演説6ヶ月」。政治は素人の私は、その言葉を信じ、毎日駅前立ちました。有権者には「新進党」の名刺はえらく評判がよく、自民党政治に不信感を持つ多くの良識派国民が、あなたの強力なリーダーシップに期待していることがひしひしと伝わってまいりました。

小さな政党ゆえ、私のような区議候補者であっても、国会議員と親しく話が出来、また、身近に感じながら国家について議論が出来る、アットホームな新進党の環境は、とても気に入っていました。経世会時代から継続されている初秋の箱根研修会も楽しい行事でした。研修講座での、選挙の鬼を自

称されるあなたの必勝法は、ノンビリムードの研修生には、大きな喝として響きわたりました。「おまえさんたちは、もつと地元、選挙区に入り込んでいかなければダメだ。私は、今でこそ行かないが、選挙区の誰の孫がどうした、あそこの婆さんは今どうしている等、すべて知っていた。国会を目指すなら戸別訪問3万件、辻説法5万回」と。

私は、あなたの話を聞けば聞くほど、そして、お会いすればお会いするほど、小沢一郎という稀有な政治家に傾注していきましました。この人についていけば、日本を変えることが出来る、青臭いかもしれませんが、当時30歳代初めの私は、本気でそう信じていました。

■新進党から新進党、自由党結党へ 政治の師だった小沢氏

ところが、平成6年12月新進党は解党され、公明党衆議院議員（参議院と地方議員は除く）と大同合併をはたし、新進党となったのです。私たちが、必死の思いで「新進党」の名刺を配り、ポスターを貼りまくったのは何だったのだろう、といささか不満も覚えましたが、政権奪取、国を変えるのだ、というあなたの言葉を信じ受け入れました。12月10日、横浜で挙行された「新進党結党大会」は、そのハデな演出と、力強い結党宣言に、体が武者震いしたのを鮮明に覚えています。あの時壇上にいらしたあなたは、本心に輝いて見

え、私は、あなたがきつと総理大臣になり、日本が変わるのだ、と確信したのです。

翌年の区議会議員選挙では、新進党候補4名のうち、私を含む3名が落選し、辛うじて松原都議の秘書だけが当選をいたしました。ちなみに、新進党に合流しなかった公明の区議候補は全員当選。にわか作りの政党の悲哀と、自らの選挙戦法の甘さに、立ち上がれない程のショックを味わいました。

その後、しばらくはあなたのことは忘れ、もっと政治について学ぼうと、大前研一氏が主宰する「一新塾」の門を叩き、彼の提唱する「平成維新」を学びました。しかし、この塾で、大前イズムを学べば学ぶほど、あなたが提唱された「日本改造計画」と類似していることに気づきました。また、残念ながら大前氏の評論家的運動にも限界を感じたのです。そんな時、将来新進党への合流を予定していた、旧公明党の参議院議員と地方議員の政党「公明」が、合流せず、新進党に参加していた旧公明党衆議院議員とともに新公明党を、旧民社系議員も新党を結党するとのことが伝わってまいりました。

この頃は、あなたや新進党から距離をおいていましたから、具体的な事情はよく知りませんが、どちらかと言えば好感を持って、このニュースを聞いたのを覚えています。そして、このことを契機に新進党は分党されていたのです。ときは、平成9年の年末だったでしょうか。翌10年には、自由党が結党され、あなたが党首に就任をされました。いかに

も、すぐ解散しそうな浮いた名前の新党が乱立した当時、自由党という歴史ある名前の政党の誕生に、今一度、あなたが総理大臣になる夢を抱いたのは私だけではなかったはずだ。

7月には自由党初の参議院選挙がありました。自由党参議院選対からチラシやらポスターが送られてきました。暑い夏の選挙でしたが一生懸命ビラを配り、ポスターを貼りまして。投票日には、自由党の開票立会人として開票所に深夜まで詰めていましたが、自由党と書かれた投票用紙が机のうえに次々と積まれていく光景に心は躍るばかりでした。結局、わが自由党は東京地方区に候補者がいないにもかかわらず、大田区で3万票を超える得票を得たのです。そして、小さな政党であったにもかかわらず、6議席を確保し、非改選とあわせ12議席となりました。新進党の分党でいささか気落ちされていたあなたにも、大きな朗報であったことでしょう。さらに、翌年1月15日に発足した小渊内閣に参画、閣僚（野田毅自治大臣兼国家公安委員長）を輩出することになりました。

この頃、私の選挙区で、あなたにとっても助けられる事件が起こりました。忘れもしない平成10年12月29日のことです。あなたは大田区羽田にある料理店に突如お越しになりました。私は、すぐさま料理屋に駆け込みました。日本酒が好きあなたは、すでにご機嫌で、このときとばかり私はある作戦に出たのです。「党首、この町の町会長が近所で飲んでい

るのですが、お連れしてもいいですか？」との私の問いかけに、あなたは「お連れしなさい」と快諾されました。選挙区で徹底してドブ板をしろ、と教えるあなたは、さすがです。党所属の地方議員候補（当時）でも、そのドブ板選挙の手助けをしてくださいました。

作戦というのは、この町会の町会会館建設についてのことです。町会役員の皆さんが廃品回収で資金を蓄え、必死に土地を購入し、運輸省（当時）の飛行場周辺対策事業の補助金1800万円と大田区の補助金で会館を建設しようとしたところ、当初羽田空港の補助金対象騒音レベル区域内にあったこの土地が、空港滑走路の沖合い移転により、対象区域外になつてしまったというのです。

この法律条文を読むと『騒音レベル区域内に居住する住民のための施設に補助金を支給する』とあり、施設そのものが騒音レベル区域内になければいけない、とは書いていないのです。この町会のほとんどの世帯は、対象騒音レベル区域内にあり、当然適用されるべきでしたが、お役人は一度ダメと決めるとなかなか誤りを認めてくれません。勿論、一介の区議会議員候補が運輸省に掛け合ったところで、相手にすらされないでしょう。そこで、あなたのトラ（失礼！）の威をお借りしようと考えたのです。

日本酒がお好きなあなたは、党所属の我々は勿論のこと、国会議員のお酌ですらも受けず、手酌で飲まれるのが常でした。それが、党所属候補の選挙区の町会長であれば、お酌を受ける、選挙や同志に対する気配りの凄さを痛感し、感謝し

た一瞬でもありました。さて、作戦通り町会長は「党首、なんとか補助金を出してください」と、あなたに懇願されました。すると、あなたは「わかりました。大田区のこととは犬伏君に任せているので、彼を通じてやってみてください」と応じられました。私は、この「わかりました」の言質を取り切ったのです。

正月明けに、運輸官僚出身の党所属国会議員とともに運輸省を訪問し、法律条文の解釈を説明し「なお、本件は小沢党首も了解していることです」と付け加えたのです。いささか無理がありますが「了解」と、あなたのトラの威をお借りしました。すると、なんと一ヶ月後の2月、大田区を通じ補助金内定の通知が届き、町会役員さんとともに、あなたのお名前の重みに感謝したものでした。当時、私は区議の候補予定者の分際でしたが、この事件を契機に、この地区での認知度は格段にあがり、8年以上たった今でも、新年会などで町会長の隣席は私の指定席となっています。ただ、後日、あなたの秘書さんからは「党首の名前を簡単に出すな！」と叱られました。……今更ですが、本当にありがとうございました。

■小沢イズムの実践と自由党分裂の悲劇

さて、その後行われた区議会議員選挙では、私は、新進党候補だった頃の倍以上の得票を頂き、初当選を飾ることができました。街頭演説や、選挙活動を通じて「小沢さんのとこ

るの政党か？ だったら応援してやる」との声をたくさんかけられ、自由党を、そして、あなたを選んで本当に良かったと痛感したのです。区議になった私は、他の議員と会派を組まず、一人で「大田区議会自由党」を称し、あなたの持論である「日本一新」を目指して改革に努めました。特に「地方財政の10%を削減すれば、住民税所得税を3割減税できるし、消費税4%相当の財源が出来る」とのあなたの提案は、一般国民にもわかりやすく、今でも拝借しています。また、あなたが訴えていた教育改革の一環としての「新・教師聖職論」を実践するため、教育労働者を標榜する教員や、日教組や全教（共産党系）と戦い続けてまいりました。

その結果、一期目を終わる頃には「お役人、教員の天敵」という、とても名誉ある称号を頂くことになりました。2期目の選挙は、経営していた旅行会社が同時多発テロの影響で倒産し、私自身も連帯債務の処理で自己破産すら検討した時期でしたが、そのことをあからさまに語ったことがかえってプラスに働き、当選者50名中9位で当選出来たのです。このことは「犬伏は、会社を潰してもうだめだろう」とウワサしていた人々には、驚異の目をもってむかえられました。当時私は「やっぱり一生懸命やった結果だ」と、内心いささか誇らしげでした。

さて、初当選以来、私は自由党員として、自分で言うのもはばかられますが、必死に党勢拡大と、あなたの「日本一新」思想の普及に努めておりました。自由党東京都総支部連

合で獲得できず、わが自由党は4議席増やし22議席に躍進、その差は歴然としていました。ただ、うまく立ち回り、自民党に戻ったあの時の裏切り者達が、いまや自民党内で時の人となっているのは、なんとも腹立たしい限りです。

■小沢イズム実践者としての私の矜持 自由党解党を受け継承党を立ち上げ

さて、かく言う私も、平成15年9月の解党、そして民主党への合流では、あなたにはついていきませんでしたから、その意味では保守党の人々と同罪と思われるかもしれません。しかし、小沢さん、私は、たとえ地方議員であっても「政治家」はステイツマンであるべきだ、と信じています。自らの信念を捨て、票や権力に迎合すべきではないと思っているのです。

民主党と合流した理由は「政権交代」という大義のため、小沢には目をつぶるということでしょう。しかし、私には、「地方から日本を変える」という自ら課したミッションがあります。たとえば大田区の職員の服務や勤務問題、業務の民間委託などを提案すると、最も大きな障壁は「自治労」傘下の区職員労働組合です。学校改革のバリアは、やはり、日教組という教員の団体であることは、誰もが知るところです。信じられないでしょうが、つい数年前まで、区職員労組や日教組は、『教員や職員が名札を着用することは人権侵害で、

合会では常任幹事を、また平成12年の総選挙では、東京都連遊説隊長、翌年の参議院選も選対で働きました。悲しいかな比例選挙で当選した衆参国会議員の多くは、二期目当選時の私と同様、それが自らの力だ、と誤解されていたのは誠に残念でした。実は、自由党、いえ、小沢一郎という稀有な政治家の力で当選していたことは、その後、彼等が落選したり、党を移動してみないとなかなか理解できないものなのです。平成12年春には、あなたにとっても思い出したくない出来事がありましたね。「政策の実現が出来ないなら連立を組んでいる必要はない」と、自公連立離脱を決断したあなたに、大臣や政務次官の椅子に恋々とし、与党に残りたい多くの議員が反発した、あの事件です。あなたは多分、26名（当時自由党所属議員は50名）もの同志が出て行くとは思っていませんでした。それも、かつての盟友である西川太一郎氏、二階俊博氏、中西啓介氏の離脱には、さぞかし悔しく、残念だったことと思います。

ただ、あなたの素晴らしところは、議会内での政策論争以外では、決して人の悪口を言わないことです。あなたの元を去った多くの国会議員は、機会ある度に、あなたがいかにひどいかを発信していますが、あなたはそのようなことを口にされることはありません。きつと、それが品性のない私や彼等と、あなたとの人間的な器量の大きな違いなのでしょう。

自由党を離脱し、政権に擦り寄った保守党のその後は哀れでした。二ヶ月後に行われた総選挙では、保守党は7議席し

各組合の「最重要闘争課題」とまで言っていたのです。こんな前近代的な、シラカンスのような意識を持った人々を、我々の税金で養っているのは、行財政改革も、教育改革も出来るわけがありません。私は、これからも、たった一人で出来るような人々の意識改革をすすめるなければなりません。このような人々の意識改革をすすめる民主党には、太ん。であるとすれば、この人たちが支持する民主党には、太陽が西から昇ることがあっても、決して合流するわけにはいかなかったのです。おわかりいただけますでしょうか。

合流当時、多くの同志の地方議員が、この問題で悩んでいました。保守中の保守政党、自由党を選び、政策のプロ集団を自認していた志高き仲間たちだからこそ、「はいそうですか」と、あなたについていく決断は出来なかったのです。

私自身の決断は即日でした。自治労、日教組の支持する政党、また、その組織内議員がいる政党には絶対に入らない、これがぶれたら、私が地方議員である意味がなくなってしまう。そこで、私は何人かの地方議員を募って、あなたの自由党の解散届が提出された後、平成15年12月9日に東京都選挙管理委員会を通じ、総務省に全国団体として「自由党」の結党届を提出し、受理されました。その届に添付した「自由党規約」にこう書かせていただきました。『本党は、小沢一郎氏が提唱した日本一新の理念に基づき、新しい日本の実現のために必要な政治活動を行うことを目的とする』と。自由党都連に残っていた、旗やジャンパーは許可を頂き、いまでも私の政治活動の際、使わせていただいています。自

日共カリーの幟に「民主党にはいくもんか」と短冊をつけて街頭演説をしていると「まだ自由党であつたんだ」とか「えらいな」という励ましの言葉を頂きます。いつか、きつと民主党が分裂し、真正保守政党が作られる時、この日本初の近代政党につけられた歴史と由緒ある「自由党」の名前をお返ししようと夢見ているのです。残念ながら、待ちきれない仲間たちは、民主党や自民党に入党してしまい、今では議員は私だけになってしまいました。

今年の4月、私も三期目の選挙がありました。選挙管理委員会に提出した「所属党派証明書」は、自らが代表の「自由党」としました。多くの新聞社から「なんじや自由党とは？」とずいぶん確認の電話がかかってきました。前回9位、自らのブログの閲覧数も延べ40万人を超え、活動が雑誌やテレビで何度も紹介されるなど、私自身や後援会幹部は勿論のこと、対立陣営すら私の「上位当選」を疑わなかったのです。

ところが、結果は下から4位。選対幹部の啞然とした表情、自分自身の脱力感は、当選はしたものの「落選」に等しいほどのものでした。勿論、戦略ミスもあるでしょう、私の人格に問題もあるのでしょうか。しかし、冷静になって考えてみると、前回、前々回ともに私は「小沢自由党ただ一人の候補」だったのです。つまり、2回の選挙で私の獲得した票数のかなりの部分が、あなたを支持する人々のものだったことに気づかなかったのです。その意味では、先ほどお話しした勘

違い国会議員と同じ過ちを犯していたことに気づかされました。とは言っても、そうであつても、小沢さん、私は今の民主党に入る気にはならないのです。小沢さん、あなたは一体どうしてしまったのですか。

■小沢氏の変節への疑問

共産党との連携や安全保障、靖国、テロ特措法まで

小沢さん、あなたは、政策さえ一致すれば共産党とも行動をとるとすると語っていらつしやいました。しかし、その一方で、日本の保守政治の復権をも訴えています。はたして、どちらが本音なのでしょう。今回の参議院選挙では、相手側（自民党）のエラーとフォアボールで、不戦勝といつてもいい勝利を手中にされました。しかし、はたして政策で国民が民主党を選んだのでしょうか。決してそうではありません。年金問題は確かに重要な問題です。しかし、国家の最も重要な命題は、国民の生命財産をいかに守れるか、ということが、本来最大の争点であるべきなのは、あなたほどの政治家がわからないわけはありません。それとも、あえて政権奪取のため、あやふやにしたのでしょうか。

小沢さん、私は閣僚級の政治家で、ご子息を自衛官にした方をあなた以外には知りません。あなたは、奥様に「子供を4人産んで欲しい」と言われたそうですね。3人は陸海空自衛官に、そして残りを政治家に、との想いだと言き、えらく

感激いたしました。お子様は、4名ではなく3名授かったよううで、本당にご長男を海上自衛隊の幹部（2等海尉）にしましたのは、凄いことだと思います。自らの信念をご子息に具現させること、簡単そうでなかなかできないことです。であるとすれば、なぜ、今回の参議院選挙で国家の安全保障について明確なる政策をお出しになれなかったのでしょうか。

靖国問題についての発言についても、変節が明らかです。

あなたは、昭和61年4月2日の国会答弁で「靖国神社には戦没者が祭られている。その追悼という事で誰もが自然な気持ちで行くべきで、私も今までも参拝しているし、これからするつもりだ」と答えていますね。それがなぜ、突然、A級戦犯の合祀問題を言い出したのでしょうか。この姿は、賛否いずれの側からも、変節と映り奇異にしか思えないのです。

さらにおかしな論理は「戦没者を祭るべき神社に、戦犯として処刑された者も祭られている」としたうえで、その戦犯については「戦勝国が敗戦国を裁いて下した『戦犯』というものは認められない」とも指摘されました。正に論理のダツチロールです。成り立たないロジックです。これは、民主党内左派へのリップサービスなのでしょう。党内左派や反日活動家は、あなたのこの発言に狂喜されたことでしょう。

自由党の時代から気になっているあなたの主張に、外国人参政権賛成の問題があります。新進党であれば、旧公明党の主張への配慮と思えなくなかったのですが、なぜ自由党に

なつても、外国人の参政権にこだわられていたのでしょうか。参政権は、国民固有の権利であり義務であります。それを、定住者であれ、外国人に開放することは、国家の基本的なあり方に関する重要な問題、言い換えれば安全保障問題ですらあるのです。ここにも、あなたの主張には、矛盾が内在しています。あなたは『永住外国人のほとんどは日本で生まれ育ち、まったく日本人そのものであり、今後も日本人として生涯生きていきたいと思っている』と述べながら『過去強制的に連行されてきて、帰化の手続きが困難』と、外国人参政権の必要性を述べられています。ところが、『参政権を認めれば、帰化も促進されるだろう』と結論付けています。この論理をたどると、問題は「参政権」ではなく「帰化手続きの簡略化」ということになります。過日、チャネル桜というテレビの番組で、各地の地方議員とこの問題で討論したのですが、多くの若い民主党議員が「強制連行されたのだから可哀想」だの「国際社会では当然」などと、本質を知らない意見を述べていましたが、あなたの理論崩壊も似たり寄ったりです。感情論で語ってはならない極めて重要な問題です。自由党時代に何度か伺おうと思っていたのですが、機会を失ってしまいました。

テロ対策特別措置法延長についての態度も気になります。あなたは「今まで反対していたのに、賛成することはできない」と、反対されることを表明されています。確かに今までは、たとえ「反対のための反対」であつたとしても、それは

所詮、社民党や共産党と同じで、国政にとって大した影響はありませんでした。しかし、今回は違います。

あなたは、湾岸戦争において我が国が、130億ドルもの資金援助をしながら人的貢献をしなかったことを痛烈に批判されておられましたね。以下は、あなた自身の言葉です。

「日本はアメリカが心情的に思い描いていた『同盟』という概念から離れてしまった。日米同盟を基軸にしていくなすべき日本にとって、湾岸戦争は大きな『負』の遺産を残したことを忘れてはならない」

■政権奪取のために国家意識を捨てるな

真の小沢一郎への願い

小沢さん、あなたは近代日本の注目すべきリーダーとして、大久保利通、伊藤博文、原敬、吉田茂をあげておられます。そして、この人々がなぜ強力なリーダーシップを持っていたか、それは、強烈な国家意識、つまり使命感、それを実現するための権力意思を持っていたことだ、と説いていらっしゃるんですね。であれば、今のあなたこそ、強烈な国家意識で、この法律に反対すべきではないのです。国家の安全保障で、我が国の国際社会での地位を「政局」にするなど、過去のあなたからは想像がつかない姿です。

私は、あなたの、お役人にも、票にも迎合しない毅然とした態度が大好きでした。今のあなたは、政権奪取のため、党

申し訳ないね」あなたは、このような、仔細なことにまで気配りをして下さる方であり、評価はすべて虚像ということを私はよく知っています。

だからこそ、小沢さん。今一度、真の小沢一郎に戻っていただきたいのです。今あなたのまわりにいる多くの人々は、あなたのわが国に対する理念や政策に共鳴して集まっている訳ではないでしょう。あなたのトップ営業マンとしての能力に、自分たちの就職（当選）をかけているに違いありません。

小沢さん、私は今でも、心のどこかであなたを忘れずにいるのかもしれない。もう一度あの輝いていたあなたに戻っていただきたいのです。今のあなたは、大勝利のためか誇らしげではありますが、なぜか疲労困憊しているようにも見えます。人間、自分に正直でないと顔にでるものです。

あなたはよく『両親から弁解やいい訳はするなといわれて育った。他人を傷つけるな。我慢せよと躰けられた』とおっしゃっていましたね。今の我慢は、決してあなたらしくはありません。我慢すべきは、そして、耐えるべきは、新進党分党だったし、自公連立離脱の時だったはず。いまの枠組みで耐えられたのなら、以前のほうがまだマシだと、多くの旧自由党支持者は思っています。

働かない公務員の代弁者、自治労出身の候補者が参議院選比例でトップ当選し、日教組出身の議員が6人もいる今の民主党に、はたして公務員改革が言い出せるのでしょうか。教

内各勢力、特に左派に迎合しているように見えてならないのです。それほどまでに、政権交代を果たしたいのだったら、公明党の参議院選挙対策のために新進党を分党した際、なぜ旧民社系、公明系議員に再結集を呼びかけなかったのですか。それほどまで、日本のためを思うのだったら、自公連立政権からの離脱を小淵総理が通告した時に、少しでも譲歩して交渉できなかったのですか。

小沢さん、世間やマスコミではあなたを「豪腕」とか「強権」「壊し屋」「非情」といったキーワードで語ることが多いようですが、9年間、まがりなりにもあなたの会社（政党）の営業所長（支部長）を勤めさせていたでいて、それらは作り上げられた虚像であることを知っています。あなたは、気配りの出来る思いやりのある人です。

非情というのは、ただ自分のもとを去る人を追わないだけのことです。壊し屋といわれても、自ら壊したことはありませんでした。過去の解党、分党、政権離脱等いずれもあなたが仕掛けたり、望んだ結果ではなかったからです。強権は、頭の悪い国会議員が多く、あなたの遠謀深慮を理解が出来なかっただけのことでしょ。

まだ、あなたが自由党党首だった時のことです。あなたの秘書さんを経由して、岩手の支援者からの大田区の問題の陳情をお受けしたことがあります。なんとか解決の糸口が見えてきたころ、あなたと党内ですれ違いました。と、その時の言葉、私は今でも忘れません。「お世話になっているよう

育改革が出来るのでしょうか。はなはだ疑問です。

小沢さん、私は今でも、あなたが出て行ってしまった家（自由党）の看板を守っています。あなたのよき相談相手の平野貞夫（前参議院議員）氏が民主党との合流を決める常任幹事会で「得るは捨つるにあり（捨我得全）」と、あなたの心境を合流を渡る常任幹事に説明し合流支持を促したと聞いています。

これは、社団法人倫理研究所創始者の丸山敏雄先生の言葉です。「一切をなげうって捨ててしまおう。地位も、名譽も、財産も、生命も、この時どういう結果が生まれるであろうか。まことに思いもよらぬ好結果が、突如としてあらわれる」と。

小沢さん、神は必要な時に必要な人を与える、という言葉があります。今あえて「政権奪取」のために、国家意識を捨てる決断をしないようお願いします。本当に民主党が政権を担当できる「マトモな政党」になるためには、今こそ、大久保利通のような「有司専制」、あなたの強力なリーダーシップが必要なのです。

長々と戯言を書いてしまいました。今更何を言っているんだと思われるかもしれませんが、私は今日も、妻に「もう、その旗はいいでしょ」と反対されながらも、「自由党」の職をにかけて「日本一新」の日を夢見ています。どうか、お身体をお大事に、国家のためにご活躍ください。

敬具